２０１８年
１１月号
NO.0075

カトリック笹丘教会

教会ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標・・・「神のいつくしみをさらに生き、広めよう！」

死者の月を迎えて

主任司祭　遠山満

今年もまた、私たちは死者の月を迎えております。日本人である私たちは、兎角、死を忌避する傾向にあります。ですから、死について黙想することが諸外国の人たちに比べ少ないのではないかと思います。そのような日本人の一人である私に、死について黙想する機会が、先日与えられました。

先日の月曜日、少し風邪気味でした。月曜日は、所用もあった為、そのままやり過ごしました。火曜日に、時間を作って病院に行こうと思ったのですが、この日も、会議と急な呼び出しなどがあり、病院に行くことができませんでした。水曜日午前中、二つの約束事を終え、午後、病院に行ってみましたら、何と休診でした。その時、多くの医院が、水曜日の午後、休診であることを思い出しました。明くる木曜日の午前、朝一番に医院に駆け込んだ時には、少し炎症が広がっていた次第です。水曜日の午後から木曜日の午前にかけて、自分が病気であり、医者に行けば直ぐ治るのに、医者に行くことができない、そのような状況を過ごしました。あたかも、医師との間に大きな渕が横たわっているかのような体験でした。

イエス様は、ご自分の事を医者と表現されました（マルコ２章17節参照）。その医者であり、救い主であるイエス様と、隔たれた状況に置かれるのが、死後の罰です。死後の苦しみが、ルカ福音書の金持ちとラザロの譬話の中で描写されています（16章19節～31節参照）。そこには、アブラハムおよびラザロと、金持ちとの間に大きな渕があると書かれています。

煉獄を過ごしている兄弟姉妹たちは、時間的な状態ではありますが、自分の救いの為に、救い主のもとへ行きたくとも行けない状態を過ごしています。何故なら、両者の間に渕があるからです。この苦しみの状況をある程度過ごせば、彼らもやがて救い主のもとへ行くことができます。けれどもそれは、大きな苦しみの時であると想像するに難くありません。何故なら、イエス様のもとに行けば苦しみが無くなるのは分かっているのに、自力では行けないからです。このような人たちの為に私たちができることは、彼らの事を思い出し、彼らの為に祈ったり、ミサを捧げたりすることです。それによって彼らは、救い主であり癒し主であるイエス様のもとへ行くことができます。それはあたかも、中風の人をイエス様のもとに連れて行ったあの四人の男性が行ったような愛の行為です（マルコ２章１節以下参照）。

亡くなった私達の肉親、恩人、友人、知人の為に、祈りを捧げて参りましょう。

カトリック笹丘教会　拡大信者会　議事録

日時　：　２０１８年１１月４日（日）　１２：００～１３：００　　約３０名参加

信徒会館ホールにて

議　題

1. 今後の予定について（小教区分のみ）

11/11(日) 七五三祝福式(ミサ中)、 コーヒーコーナー(青年黙想会報告)
11/18(日) 「終活」勉強会(講師：高崎氏・・草苑)10 時ミサ後、 納骨室ミサ 14:00
12/2(日) クリスマス・バザー
12/7(金) アンナ・ヨアキム会
12/9(日) クリスマス飾り付け、大掃除、教会学校クリスマス会
12/16(日) クリスマス黙想会(共同回心式)
1/13(日) 新成人のためのミサ、クリスマス飾り片付け
1/20(日) 新年会

2. 福岡地区信徒協報告

「福岡地区宣教司牧評議会」設置について・・・来年度から（教区ではなく福岡地区として）発足を検討中。

・既存の「地区信徒使徒職協議会」は、各小教区代表者と各種団体（女性の会、青年会、修道女連盟など）の代表者の集まり（顧問の司祭１名参加）。

「地区宣教司牧評議会」は、司祭、修道者、信徒の各代表で構成されるが、詳細は検討中。

・教区評議会は、教会法により設置が定められているが、福岡教区では具体化されておらず（教区ハンドブック p. 104～参照）　佐賀・熊本・筑後地区ではすでに地区評議会が設置されている。（※但し、地区信徒協を地区宣教司牧評議会と名称変更）

福岡地区では、「福岡地区信徒使徒職協議会」とは別に「福岡地区宣教司牧評議会」として発足を検討中。

3. その他

1．クリスマス・バザーの収益金の使途は？

・メンテナンスが必要なところが出てきているので、修繕積立のためと、12 月でもあり、ホームレス支援として美野島司牧センターに寄付してはどうか。

・修繕積立計画を立てるべき。メンテナンスが必要になり、費用もそれなりにかかるので、そろそろメンテナンス委員会を立ち上げてはどうか。

・聖堂のエアコン・フィルターは清掃済み（メンテナンス義務あり）。故障中のマイクとイヤホンも新調する予定（見積もり中）。　教会敷地入口の側溝の修繕費用も見積もり中。

2．西原村のお米は 2，3 週間後に小教区に配達予定。

3．役員交代について・・来年度の役員交代の時期が来るので、皆さん考えておいて下さい。

教会ニュース用に議事録を抜粋したものを掲載　（文責　川原）

～～～信仰のルーツ　故米田博一氏～～～

故米田博一氏

わが父 米田博一の信仰の歩みを辿る

第五回（7月号から連載しています）

米田博正

6　臨終に際して

父が広島での叙階式に与った半年後、３月３１日、父が家で過ごす最後の日となりました。この夜のおかずは、わたしが買っていった父の好物の馬刺しでした。母曰く、「おいしい、おいしい」と言いながら食べてくれたこの夕食が、父にとっての「最後の晩餐」となったのでした。

翌日、４月１日（くしくもビリオン神父様の命日でしたが）、わたしは父からの電話を受けました。「博正、わし、もうあかんわ！」と、父はとても苦しそうでした。済生会病院に救急搬送し、診断は肺炎でした。その後、肺炎の病状はいったん落ち着いたのですが、４月２２日（その日は父が楽しみにしていた、松尾太神学生の叙階式の日でした）、入院先で脳梗塞を併発し半身不随、飲食不可、寝たきり状態となってしまいました。父は、４月１日に倒れてから４回転院し、その間も、誤嚥性肺炎や腎不全など合併症をおこして、しだいに衰えていきました。父が召されるまでの入院生活は８ヶ月に及びました。

７月３０日、日曜日、この主日のミサが父にとって生涯で与った最後のミサとなりました。父は笹丘教会でも、仕事の出張先でも平日の朝ミサにもよく与っていましたが、人生最後のミサは、笹丘教会から初めて司祭に叙階された、松尾太神父様の笹丘での初ミサでした。主治医の反対もあったのですが、父はベッドのままミサに与り、松尾神父様をとおして最後のミサの祝福を受けることができました。

わたしは連日、仕事帰りに母を連れて父の見舞いに行き、父の耳元で、その日の詩編、アレルヤ唱を唱えたり、病者のための祈りを捧げたり、父の好きな「アヴェマリア」や「アヴェヴェルム・コルプス」「グレゴリオ聖歌」などを聴かせ、そんな折には、少し父の表情が和らいだような感じがしていました。

裏につづく

また、父の体で唯一動いた右手にロザリオを持たせると、目を閉じたままロザリオを繰り、十字架をさわってかすかな感覚を確かめながら祈っているようでした。言葉はあまり話すことができませんでしたが、わたしが父の額と胸の前で十字を切って「父と子と聖霊のみ名によって…」と言うと、わたしの声に合わせて「アーメン」と応えてくれていました。

１２月１７日、日曜日、この日がわたしにとって最後の見舞いとなりました。「司祭の家」の山頭神父様に一緒においでいただき、病床の父を訪ねました。わたしは、その日の朗読箇所、父の好きなルカ福音書の「マグニフィカート」の箇所を耳元で読み、山頭神父様から祝福をしていただきました。この時、父と交わした最後の言葉は、わたしの母に対しての「祈っとくわ」という言葉でした。（母はこの時、骨折のため別の病院に入院しており、父は母、すなわち長年にわたって連れ添ってきた妻への祈りの言葉を、最後にわたしに託したのでした。）

そして最期の時、１２月２１日午後、父は敗血症のため意識不明となりました。わたしが夕方病院に到着した時には、すでに父の息はありませんでしたが、看護師さんたちが一生懸命、蘇生措置を施してくださっていました。父は急遽かけつけてくださった、浄水通教会の寺浜神父様から病者の塗油を授けていただき、家族と、その後でおいでくださったヒルデン神父様に見守られながら、同日１８時３９分、帰天いたしました。８３年の人生でした。母（父にとっては人生をともに歩んだ伴侶）が父にお別れにかけた言葉は、「お父さん、ありがとう。お父さんのおかげでマリア様に会えましたよ！」でした。

洗礼者ヨハネの洗礼名をいただいた父、博一の葬儀ミサは、ご降誕のお祝いの慌ただしいさなかでしたが、１２月２４日、日曜日、クリスマスイブにアウグスチノ会の神父様方が執り行ってくださいました。遠く長崎からは松尾神父様もおいでくださり、父にとっては最期の、最高のクリスマスプレゼントではなかったかなと感じました。【次月最終回】

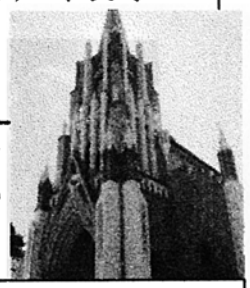
†平戸巡礼の旅　2018.10. 13(土)　天気　快晴

貸し切りバスに47名、朝7時出発！好天に恵まれ充実のプランで大満足！！

田平教会

今回、笹丘教会の巡礼に初参加させていただきました。お天気にも恵れ、田平・平戸・山田・紐差と歴史ある４つの教会を巡り、ミサやお祈りをささげ心に残る一日となりました。建築や内装の美しさはもちろん、禁教の中脈々と受け継がれてきた信仰の強さと、それを支えた外国人宣教師のことを思うとき、私たちはそれを次世代に伝えていけるのだろうかと反省し、信仰生活を見直すきっかけをいただきました。ありがとうございました。（足立）

実は私は、一度も国外に出たことがありません。そんな中、有名な平戸・生月に行かせていただきましたが、大変カルチャーショックを受けました。東京や大阪で見たこともない独特の教会。私の発想をはるかに超える建築の数々でした。たった１５０年の違いですが、長崎のカトリックの歴史と多様さを感じました。あの地域に聖職者が集中しているそうですが、弾圧がなければまったく文化が変わっていただろうと、深く思わされました。（ラファエル ヨセフ金氣）


平戸ザビエル記念教会

一番印象に残ったのは、平戸ザビエル教会です。建設予定されていた土地ではなく、当時の神父様が信徒の所有地に惚れ込んでその土地に教会建設が実現したという話です。予定されていたという土地は現在、駐車場になっていましたが、教会を建設に何がふさわしくなかったのだろうと疑問に思いました。狭いだけの理由でしょうか？いずれにしても、資産を惜しげもなく提供したその信徒の厚い信仰、その時代の信仰の強さ感じました。（西山）

山田教会

初めて教会の巡礼に参加しました。じつは役員の一人として事前の下見に同行し、今回の巡礼地をすでに訪問ずみでしたが、巡礼団として皆と心を合わせる祈りの旅がもたらす感慨は格別のものでした。とくに、悲しみの聖母に捧げられた山田教会に強い印象を受け、もっと長くこの空間で黙想していたいと切に感じました。遠からず、次は今回参加できなかった家族を伴って、再び訪れたいと思います。（辻部）

紐差教会

父の生まれ故郷である平戸には今まで何度が行ったことがありますが、今回の巡礼で初めて紐差教会を訪れる事が出来ました。他の教会と違い天井に花柄の装飾が施され、その美しさに感動しました。バスの中で、子供と一緒に遊んだのも楽しかったです。（峯）

† 爽やかな秋晴れ！

神の計らいに感謝しながら、ロザリオを唱え、４つの教会を巡ることができた。田平ではミサを捧げ、平戸、山田、紐差の全ての教会それぞれの主任神父様からお話しを聞くことができた。恵みあふれる巡礼！準備してくださった皆様に感謝！無事を祈って下さった皆様に感謝いたします。（Ｋ．Ｋ）

永年の信仰が息づく教会を訪問して感じたことは「信仰は伝えれば伝わるものか？」ということ。青少年の姿が教会から見えなくなったと嘆き始めてから久しい。このままでは日本の教会は消滅していくという懸念をもっているのは私だけであればいいのだが。自らの労働奉仕で建築した伝統のある教会堂の建物に沁みこんだ先達の祈りは、巡礼者たる私たちに何かを語っているのではないだろうか。聴く耳、感じる心を持ちたい（川原）

†神学院祭 2018 11月3日（土）快晴

――― イエス・キリストに結ばれて―――

日本カトリック神学院福岡キャンパスの神学生 17 名

来年度からは新体制に・・・ どんな環境でもイエス・キリストに結ばれていれば皆ひとつ！

快晴の中、普段は閑静な敷地内も出店でにぎわいました。

院内の普段の様子などがビデオで紹介されていました。（魔女の宅急便？）

綿菓子コーナーはちびっこたちに大人気！

笹丘教会からはカレーと綿菓子

写真の後部の人だまりは神学院ツアー大盛況！女学生からも囲まれました。
ここは食堂です。

子ども企画室ではマジックショーもありました。見れたかな？
神学生とともに何か真剣に取り組んでいました。

編集後記

先月、ペトロ イ・スンヒョン神父様のお通夜に参加した。まったく面識はなかったけれど、日本で神父として奉仕していくことを決意して来られたのだと思うと、その死が気の毒で、悲しかった。37歳という若さで・・・谷口神父様を先輩、先輩と慕っていたという弔辞が胸に響いた。宮原司教様の「失う悲しみより彼から与えられたものに感謝していきましょう」とのことばに救われた。
イ・スンヒョン神父様ありがとうございました。この巡り合わせに感謝。（J.N）